

大学が「社会との関係を改めて問い直す」ということの不思議

経済経営研究所(政策研究リエゾンセンター)  
助教授 森田 弘一

平成16年4月1日付けをもって、国立大学がいよいよ法人化のスタートを切ることとなりました。制度的に大きなものから細かい手続きに至るまで多くのルールが変わることとなり、国立大学の関係者はしばらくその対応(これまでの準備も含めてのことですが)に大忙しの毎日を送ることになります。そういった事務面での整備が進められている一方で、法人化が決定されてからというもの、「産学連携」をキーワードにして、日本全国の国立大学で実に様々な取り組みが進められてきています。

本学が経済経営研究所に「政策研究リエゾンセンター」を設置したこともこのような動きに決して無関係ではありません。少し大げさに言うならば、日本中のほとんど全てと言ってもいいくらいの多くの国立大学が、この機会に産学連携についてのいろいろな方法や考え方を「社会に向けて」(これが一体何を意味するのか定義が難しいのですが)提示しているように思えます。それは、それぞれの「新生」国立大学の看板でもあるかのように、あるいは、いくばくかの研究資金の獲得のためのキャッチコピーとして・・・。

しかし、少し待って下さい。大学とはこれまでも社会との密接な関わりの中で存在してきたはずではなかったのでしょうか。「そんな当たり前のことを今更とりたてて騒いでどうするんだ」といった、ある意味で常識的な声が大学内部のあちらこちらから聞こえてきます。これらの声と「産学連携のスローガン」が錯綜する中で、今のご時世はやりの「守旧派」対「改革派」の暗闘が始まり、気がついてみると誰もが国立大学の法人化の意味を見失っている、そんな状況になってはいないでしょうか。

法人格を持つということには様々な意味があり、それぞれに専門的知見をお持ちの方はたくさんおられると思うので、ここでは極めて当たり前のことを言うことにします。例えば「大学が組織として社会的地位を維持していくために、個人管理から組織管理への視点の転換が重要になる」ということであり、また、これをポジティブにとらえるとすれば「組織で対応するが故に実現可能となることもいろいろと増えてくる」としてみましょう。そのためには、大学といった極めて複雑化した組織の運営戦略(あえて「経営戦略」とは言いません)をどう構築

していくかというやっかいな問題に、大学自身が取り組んでいかなければなりません。

また、大学の「リエゾン活動」ということも、最近よく耳にされることが多いと思います。これは「大学の保有する情報を効率的に外部に発信し、同時に、外部から入ってくる情報（問い合わせ等）に効率的に対応する」というのが共通した機能であるようです。そのためには多くの事務スタッフも必要でしょうし、それぞれの分野に精通した専門家の力もいるでしょう。私の所属する部署もこの名前を冠しておりますが、その意味ではやや看板に偽りがありの感は否めません。こういった「汗をかく仕事」については、これまで多くの国立大学では想像だにしていなかったわけですから、労働の強化という意味でも全くもって迷惑な話なのかもしれません。

しかし、「リエゾン活動」の真の意義は、大学としての組織的活動をいかにして効率的に実施するか、また、それを組織の構成員に浸透させていくかという内向きの課題に行き着くものであると考えています。即ち、「我が大学は、積極的なリエゾン活動を展開しております」というほとんど無邪気な宣伝文句ではなく、大学がその特色に応じた運営戦略を構築していくための内なる体制整備を進め、ごくあたりまえの社会的組織に脱皮していくという決意表明として、もっと重い意味を持つべきものではないでしょうか。それは、別に、名だたる大企業から莫大な研究資金を獲得することが目的ではないはずで

このように、大学が「社会との関係を考える」ということは、外部との関係だけでなく組織内部との関係も含めた、アンビバレントな問題を含むものでもあります。従って、本リエゾンセンターの活動は、ある意味では大学の内部に向けた情報発信を行うものでもあり、また、大学の活動（もちろん研究も含めてです）そのものが、社会的にどのような意味を有するものであるかを政策的観点も含めて研究していく必要があると考えています。多くの大学では「リエゾン」が理工系の学部をサポートするような位置づけにある中で、神戸大学のリエゾン活動では、「ひと味違った切り口」をこれからも内外に発信していけるよう、法人化を迎えるにあたってますます身の引きしまる思いです。

注）本文中の「大学」は、基本的に国立大学のことを想定しております。

本コラムを読まれた方には私立大学の関係者の方も多数おられることと思いますが、これまでのご経験を含め、様々なご意見やご示唆をいただけますと幸いです。